

2020 年度実施概要

学校名

洋野町立種市小学校

採択活動名

「ふるさと種市—われら海の子—」

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 種市の海の生き物たち（磯遊び・海の生き物図鑑）	3年	総合
2. 津波防災教室	4年	総合
3. すみよい町種市（漂着物調査・津波防災教室）	4年	総合
4. 種市の森と海（水質調査・植林体験）	5年	総合
5. 他地域の海を知ろう	6年	総合
6. 種市の海・町 再発見（海洋サミット 海洋カンファレンス参加）	6年	総合

取り組みの概要

本校の海洋教育は、「ふるさと種市 ～われら海の子～」をテーマとし、海に生き、海と共に歩んできた洋野町の歴史や文化に、「海に親しむ・海を知る・海を守る・海を利用する」の4つの観点で目を向け、自分たちの生まれ育ってきた地域に喜びと誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育てることを目標としている。また、学年の発達段階に応じて、身近な海からグローバルな視点へと発展させられるように系統立てて、学習に取り組めるように計画している。

①種市の海と生き物たち

6月初旬に、磯遊び（1～3年）と磯掃除（4～6年）を全校で行った。

磯遊びでは、生き物を探したり観察したりしながら、「海に親しむ」ことを大切に活動した。また、事前事後の学習において、生き物図鑑の作成や活動を通して発見したことなどを掲示するなど、発信も行うようにした。

磯掃除では、海上保安庁の協力も得ながら、「海を守る」ことに目を向けさせた。海洋ごみや海洋汚染が、海そのものや海に生きるものにどのような影響を与えているか、活動を通して深く学ぶことができた。また、4学年は「ゴミの分別調査」を行うことで、どのようなゴミが多いかを実感し、これからの生活で自分の取り組んでいきたいことを考え実践させられるようにした。

②津波防災教室

種市高校の生徒から、地震や津波発生のメカニズム、避難において重要なことなどの授業を実施していただいた。津波の速度やパワーなどを分かりやすく教えてもらったり、模型を使って津波と波の違いを実演していただいたりしたおかげで、防災に関しての重要性をより一層認識することができた。

③種市の森と海

「森はめぐる」の植林活動に参加し、海と森は深い関わりがあることを理解することができた。大気汚染や地球温暖化、栄養素の循環などにも目を向けられるようになるなど、学習を深めることができた。

また、学校近くを流れる小柏川の「水生生物調査」を、県北広域振興局の協力を得ながら実施した。きれいな水にすむ生物や汚れた水にすむ生物に分類しながら調査し、水質の推測を行った。結果を基に、以前はとても汚れていた川だったが、徐々に水質が改善されてきたこと、今後自分の生活で実践していきたいことを意欲的に考えられる機会となった。

④復興防災施設見学

宮古市田老の、震災遺構である「たろう観光ホテル」と現在建設中の「防潮堤」の見学を行った。東日本大震災で大きな被害を受けた実際の場所で、体験した人の話を伺ったり映像を見せてもらったりすることで、改めて海は恩恵ばかりではないということを実感することができた。また、人を守るためにただ防潮堤を高くするわけではなく、景観などに関する考えも含まれていることを学んだ。さらに、大きな防潮堤に安心するのではなく、津波が起こりそうなときには、自分の身は自分で守るために「津波てんでんこ」の考えも教えていただいた。

⑤海洋サミット・海洋カンファレンス参加

小学校での海洋学習のまとめとして、6 学年が参加し発表した。これまでの学習を総合的に振り返り、洋野町の特色や産業を生かすとともに、課題と感ずる部分を改善しながら街づくりの提案をするという実践を行った。環境（ゴミ・海洋プラスチック・温暖化）や産業（ウニを中心とした町おこし）を柱としながら、小学校で活動した磯掃除や植林体験、水生生物調査なども関連させながら情報発信をすることができた。また自分たちだけでなく、地域のみんなで「海を守るためには」という、アイデアも出し合いながら、まとめることができた。



津波防災教室



磯掃除

～ゴミ分別作業～



種市の森と海

～植林体験～